総合教育センターだより

街路樹

発行　第　３６　号
平成２１年１１月１６日（月）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

学力向上に向けて㉗

～　日々の授業の充実は「指さし」から　～

連休中に雑誌や本を捨てた。その作業中、30年ぶりに「指さし」という言葉に再会した。教員2年目、校長先生に勧められ購読を始めた広島大学附属小学校の「学校教育」。昭和56年7月号の吉本　均教授による巻頭言にこの言葉はあった。一部を引用する。

『教師は教材運搬人ではなくて、教材への「指さし人」でなくてはならない。つまり、教材を子どもたちのなかに運び込むだけが教師の仕事ではない。教師は、教材の重点を正確に「指さす」のであり、そのことによって子どもたちは、その方向にむかって能動的な活動を発動させなくてはならないのである。教師はたえず指さすのであり、子どもたちがそれを見つけだし、つかみとるのである。　以下　省略　』

子どもたちの能動的活動を呼び起こす「指さし」とは、教師の「助言・指示」の働きかけであり、「説明」（語りかけ）であり、そして「発問」（問いかけ）なのであると吉本氏は指摘し、教材への「指さし」を呼びかけている。

日々の授業を顧みると、教師が説明し、記憶させる授業がある。また、子どもの状況や意欲・関心に応じて学習を組織し、子ども自らが学ぶ授業もある。さらに、ドリル中心の授業や活用B（学テ）に対応する目的での問題練習の時間もある。どの時間も目的にそった必要な時間である。当たり前であるが、書く力は、書くことによって育つ。読む力は、読むことによって育つ。そして、今、話題になっている活用する力は、問題解決の学習過程の中で育つのであろう。

このような目的を持った授業の展開場面で、教師の働きかけが少なくなっていないかが心配である。教師は、説明したら後は見ているだけ。計画を立てさせたら、グループ活動や話し合い活動をさせるだけ。こんな授業が増えていないだろうか。

実は、獲得し保持していること（既習事項）を次の新しい場面に応用・活用する力を育成するには、問題解決の過程において適度に指導する方法がよいという研究がある。ヒントや知識を与えることで、いたずらに時間をかけることや誤りの定着を防ぐための適度な指導は、まさに「指さす」教師の働きかけである。

いずれの授業においても、教材の重点を正確に「指さし」し、子どもたちの能動的活動を呼び起こすこと、すなわち意図的な教師の働きかけを行うことで日々の授業が充実していくと確信している。

授業改善・指導技術　⑰

～　評価を指導に生かす　その2　～

◇　子どもからみた指導と評価の一体化　◇

①「学習と評価の一体化」とも言える。評価が指導に生かされれば、よい学習指導が保障されることになる。

②　自己評価活動のとき、教師からの評価情報は、自分の学習の状況や成果を把握し、判断する材料となる。

③　自己評価活動を通して自分の次のめあてや方法、理解できなかったこと疑問点が明らかになり、教師に援助を求めるきっかけになる。

④　相互評価は、互いの活動のよさを自分の学習に生かしたり、一緒に解決することにより考えを深めたりすることにより、共に学ぶ力を高めたりできる。

※　個に応じた指導に生きる評価を行うには、観点別学習の評価を基本とした評価方法を充実させ、**目標に準拠した評価（絶対評価）を常に行うことが重要となる。**

学級経営のヒント　⑯

～　褒めること、叱ること　その1　～

子どもにとっては、学級担任に褒められるということが、学級での存在感を強くし、関心・意欲・態度の育成に大きくかかわってくる。「褒めること」に関して心がけたいことは。

①日常の子どもの様子を的確に把握する。
　－逆に、子どもも教師が人によって違った対応をしていないかをよくみている。－
②内容によって褒める場を考慮する。（個人、一斉）
　－子どもはみんなの前で褒められたいと思っている。褒める時と場を的確に判断したい。－
③褒める子ども、褒められない子どもに片寄りがないか、中心的子どもにスポットがあたりすぎていないか把握する。
④学校内のことだけにこだわらず広く取り上げるようにする。
⑤中・長期的内容（係活動や学校行事など）ほど、途中での励ましの必要性がある。

※　子どもは、努力の成果に対するものだけでなく、努力している姿を評価して欲しいと思っている。

研修の感想・講義紹介

コーチング講座

○　子どもと話す時も、同僚と話す時も、答えを持って話していました。しかし、相手に任せても想像以上の成果が出ることがわかり、心を解放したいと思いました。（小・M）

○「承認する」ということが意外と忘れられていて、身近にいる学年の先生方に言葉で伝えていなかったなと思いました　。また、相手の考えを引き出す質問というのは、とても参考になりました。（小・Y）

○　すぐに「聞く」「認める」ことを始めたいと思います。（小・B）

○　コーチングは「前向き」なのだと思います。ただ聴いて受け止めるのではなく、「相手がしたいことの本質」を引き出すことができるのだと思います。（小・K）

○「意識して」行うことの大切さを学びました。「意識して」行うことと、「心から」ということを大切にしていきたいと思います。（中・U）

コーチング講座講義より

コーチングの姿勢
◆答えは相手が持っている
◆相手の味方でいる
◆常に可能性を信じる

承認する
◆相手の存在価値を認める
◆相手の思いや考えを認める
◆相手の成長や変化を認める
◆相手の行動プロセスを認める

○　話を聴く時のポイント
「あいうえお」で聞く
あ　アイコンタクト
い　あいづち
う　うながし　うなずき
え　笑顔
お　オウム返し（相手の言葉をそのまま繰り返す）

〈講師〉
共育コーチング研究会
大石稜子　氏